

村研打合せ会

四月十六日 東京學士会館

出席者 有賀、喜多野、小山、瀧武、村松、中

野、塚本、浜島、北川、松原の各氏

一、大会テーマの件

本年度大会テーマについて、寄せられた会員諸氏よりの意見をまとめると次の如くである。

A B折衷案 大山彦一、山本登、島田隆三氏

B案支持 生田清、皆川勇一、殿知孝芸大

(林福苗、後藤和夫、神谷力、高野史男の各氏)

別途テーマ 原宏(兼業農家)、斎藤兵市、山岡栄市(魚村、漁業改革)の各氏

また当日出席の浜島朗、中野卓氏もからも兼業の案が出たが、昨年大会の結論が、農地改革継続であり、農地改革の円通は更に追求すべきテーマでもあるので、本年度は別途テーマを考えず、それは来年に廻すこととした。そして種々論議の上、農地改革をめぐる「家」「地主」「農民組合」の円通と三テーマにしばられたが、結局「農民組合」の問題をとりあつかうことにおちついた。(別掲の原案参照)

二、宿題 委員会の件

行テーマにしたがって、新しく福武高、大内方、内山政照三氏を宿題委員に推薦し必

要に応じて委員補助を定めることとした。また来年度からは、前年度の大会においてテーマを定めることとした。

三、財政報告

すでに手持ちの額は五五〇〇円となり、まったく心細い状態にある。それに二九年度会費払込者は六人しかないような始末で、会員諸氏の御協力を望むこと切である旨報告があった。

四、研究通信の件

何回も通信において述べているように最近通信原稿の集りが皆無に近く、スランアを乗りさるのが目下の緊要な課題であるとの編輯部からの要望があった。

五、研究会の件

村研の活動を一層盛かにしようとの期待からすでに東大、東京教育大で、若い層が研究会をはじめている。こゝでは毎週一回アメリカ農村社会学の文献研究を行っており、こういったものを土台に、一ヶ月一組、調査報告を中心にした東京での研究集会を行つたらどうかとの提案があった。

六、年報の件

年報に關しては、有賀氏が、前号に状況報告をされてゐるが、つけ加えれば、第二集の原稿は十二月とせずに早めに年報編輯委員の手で集め、協議の上、送りか(3頁へ)